

大分県別府市・古賀原開拓地

記念碑が3基、水道碑も

大分県の戦後開拓地は県内全域に分布しており、1945（昭和20）年から68年までに4844戸の入植があった。県東部のほぼ中央に位置する別府市内成・古賀原（こがのはる）地区（旧・古賀原村）には40戸が入植。その開拓の歴史は、水を求めての厳しい戦いだった。

47年3月に第1陣35戸が入植、後に5戸追加入植。標高600m位の高い丘陵地だった。開拓者はクワやツルハシで開墾を始め、翌年、古賀原開拓農協を設立。焼き畑農業から始まり、野菜などを作って別府の町に売りに行った。

湧き水や池もない原野で、水不足が深刻だった。入植者は沢水を見つけて飲み水に供する生活が長く続いた。61年に簡易水道が完成したものの、日照りで水が涸れることが多かった。

84年に現在の水道施設が完成し、ようやく水不足から解放された。現在、ダイコン、ハクサイ、キュウリなどの野菜や茶などが生産されている。

古賀原公民館の敷地内に、記念碑が並んで3基ある。古賀原自治会が77年、97年、15年に建立したもので、それぞれの碑銘は「開拓三十年記念」「古賀原誕生五十周年記念碑」「古賀原誕生七十周年記念碑」。

近くに「飲雑用水施設竣工記念碑」もある。碑文には「飲用水の不足で当初は谷間の素掘井戸より泥水を担ぎ上げて使用し、それも底をつくると遠くの道なき谷間を水を探し求め歩き焦燥の日々が続く」と苦勞が刻まれている。

・古賀原開拓記念碑

（30周年、50周年、70周年及び飲雑用水施設竣工記念碑）

①位置	大分県別府市内成古賀原		
②設置者			
③設置日	30周年	昭和52年〇月	古賀原自治会
	50周年	平成9年10月	古賀原自治会
	70周年	平成29年11月	古賀原自治会
	飲雑用水	昭和59年10月	別府市・古賀原水道組合
④碑文表	30周年	開拓30周年記念	
	50周年	古賀原誕生五十周年記念碑	
	70周年	古賀原誕生七十周年記念碑	
	飲雑用水	県営古賀原地区 飲雑用水施設竣工記念碑 大分県農政部長 中島恭司	
⑤碑文裏	30周年	昭和五十二年〇月	古賀原自治会
	50周年	平成九年十月吉日	古賀原自治会
	70周年	平成二十九年十一月吉日	古賀原自治会
	飲雑用水	威風	

終戦後総ての物資欠乏に因って食糧増産を目的として開拓制度が出来その恩恵に預かりてこの地に入植せるも飲用水の不足で当初は谷間の素掘井戸より泥水を担ぎ上げて使用しそれも底をつくと遠くの道なき谷間を水を探し求め歩き焦燥の日々が続く 後年簡易水道の設置ありたるも水源の湧出量が尠なく始終水不足に悩まされ現世に於いてこの様に水に事欠く生活の惨めさを嘆く声その極みに達したその秋にあたり地区民一丸の願望が叶い国縣市各々関係の御温情溢れる格別の御詮議に因って汲めどもつきぬ地底の清水が渾渾と湧き出て御温情の水が各戸に廻るようになった時の感激は何物にも代え難く筆舌に尽くし得ずこの歓喜この御高思に対する感謝は肝に銘じ永久に忘れる事なく後世に語り継がなければならない さらにまた古賀原農業の振興発展を祈願しこの碑を建てる

昭和五十九年十月吉日

別府市長 ほか氏名

事業概要等

⑥写真 30周年 50周年 70周年



飲雑用水



⑦当該地区の沿革等

⑧記念碑の現在の立地状況

公民館敷地内に設置され、管理されている。

⑨その他、当該記念碑関連記事

